

提出
順番

No.
4

令和 2 年 8 月 28 日
午前・午後 10 時 23 分受領

令和 2 年 8 月 28 日

幕別町議会議長 寺 林 俊 幸 様

幕別町議会議員 酒 井 はやみ



一般質問通告書

次のとおり通告します。

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
次世代に語り継ぐ、平和教育の充実を	<p>終戦・被爆 75 年の節目の年を迎えました。被爆者の長年にわたる訴えが世界の世論を動かし、2017年には核兵器禁止条約が 122 カ国の賛成で採択されました。条約の発効に必要な 50 か国の批准まであと 6 カ国と迫っています。</p> <p>しかし、唯一の被爆国である日本政府は、この条約への参加に背を向け続けています。世界にはいまだ約 1 万 4 千発の核兵器が存在し、核保有国 9 カ国の核兵器予算は、年間約 7.8 兆円とも言われています。</p> <p>世界を脅かしているコロナパンデミックは、核などの軍事力はウイルスの抑制に何の力も発揮しえないことを示し、国際社会が人的にも財政的にも連帯し、協力しあう必要性を浮き彫りにしました。</p> <p>こうした情勢のもと、日本が積極的に核兵器禁止条約の署名・批准に向かうことが求められていると考えます。</p> <p>戦争体験を直接語れる世代が減るなかで、「今語らなければ」と初めて戦争体験を語り始める体験者も出てきています。語り部の思いや体験を聞き取って、「原爆の絵」に表す広島の高校生の取組など、若い人が体験者に代わって語り継ぐ役割を果たし始めています。</p> <p>幕別町でも、若い世代が歴史の事実をしっかりと学び、戦争を語り伝える力をつけられるよう、また、主権者としてこれからの社会の在り方を選択していけるよう、町としてどのような姿勢で平和事業、平和教育に取り組むのか、以下の点を伺います。</p>

	<p>1 幕別町平和非核宣言から35年、本町の平和事業の取組と、その評価は。</p> <p>2 町民や子どもたちが、戦争の歴史を学べる機会を充実させる考えは。</p> <p>① 学校教育の中で</p> <ul style="list-style-type: none">・副読本の内容充実・町内の体験者から聞き取り、感想や絵、演劇などで自ら表現する取組・戦跡見学 など <p>② 町内の戦争の記録や体験、戦跡を整理して記録化（文書や映像などで）し、次世代に引き継ぐ取組</p> <p>③ 町民の生活の中で</p> <ul style="list-style-type: none">・ふるさと館での、戦時についての展示を充実・折り鶴やパネル展の取組に加えて、夏の広報紙などに特集ページを作る、戦争の映画上映会をするなど
--	--